

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2014-06-09

APM 秋山孝ポスター美術館 長岡
歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)

Workshop news 006



第6回APMワークショップ 大切な人へ想いをこめて
小国和紙でつくる ペーパーウェイト

5月31日(土) pm0:30~1:30/会場: APM 蔵/参加者: 18名/講師: たかだみつみ/スタッフ: 長岡造形大学生6名

〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233
<http://apm-nagaoka.com>



長岡の伝統工芸「小国和紙」

2014年度1回目のワークショップは、長岡の伝統工芸「小国和紙」を使用して行いました。小国和紙は、長岡市小国地区で伝統的に生産されている和紙です。江戸時代以前から作られており、生産工程の中で「雪」を利用することが特徴です。原料となる楮(こうぞ)の皮を雪の上に並べて天日干しをして漂白します。また、晴れの少ない冬の間は、濡いた紙を雪の中に入れて保存し、春になったら取り出して天日干しを行います。これを「かんぐれ」といいます。雪国ならではの知恵と工夫でつくられる和紙です。今回は、(有)小国和紙生産組合様のご協力の下、開催いたしました。

想いをこめて…

まず、好きな石を2個選びます。この石は事前にスタッフがいろいろな場所で拾い集めたものです。石は、模様も形も大きさも様々です。参加者は実際に

握ってみたり、持ち比べてみたりして、気に入った石を選び出しました。そして、今回は「想いをこめる」ということもキーワードになっています。贈る相手へのメッセージや想いを石に記してもらいました。また、自分の夢や願い事を書いた方もいます。そして、小さなお子様は、かわいい絵を描きました。和紙の下に隠れて見えなくなってしまうのですが、それぞれの想いが刻み込まれました。

接着剤は「こんにゃく糊」

いよいよ小国和紙の登場です。石に和紙を貼り付けていきます。接着剤には「こんにゃく糊」を使いました。こんにゃく糊は昔から和紙表面の毛羽立ち防止のコーティング剤として使用されています。ほかに寒天や柿渋を用いることもあるようです。

こんにゃく糊を全体に塗布した石に、色とりどりの和紙から好みの色を選んで、ちぎって貼り付けていきます。色合

いも重ね具合も一人ひとり違います。レリーフのように立体的に貼付けるなど工夫を凝らした作品もありました。開催日はとてもお天気が良く、暑い日だった為、冷たくヌルヌルとした感触のこんにゃく糊を触るのは気持ち良かったです。

完成した作品を参加者同士で見せ合い、こだわった点や気に入っている点などを発表しあいました。同じ工程を踏んで作成したものでも、色も形も全く違うことに驚きの声があがっていました。最後に参加者全員で記念撮影をして、今回のワークショップは幕を閉じました。(たかだみつみ・APM学芸員)



<材料・道具>・石・小国和紙・こんにゃく糊・トレー・油性ペン・クレヨン・濡れタオル・ビニール袋 など